

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.24



Nurseの現場



ひとに笑顔を ちいきに“愛”を
社会医療法人 三愛会

社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」Vol.24(2022年7月1日発行)

発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター 広報委員会

社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/ 三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com

“禍”の時代に、“看護”の道を選ぶ。



新人研修で実技を学ぶ新卒看護師。

2022年4月1日。新卒職員を対象とした入社式が、社会医療法人三愛会で執り行われた。うち、大分三愛メディカルセンタールの新卒となる看護師は12名。看護師は、未だ続くコロナ禍において否が応にも注目を浴びる職業となった。

「看護師として、続くコロナ禍において、どういった想いで日々を過ごしていきたいですか?」。当日は一部メディアからの取材要請もあり、20歳前後の彼女たちは、記者の質問に対して熱い胸の内を語っていた。

「第1波」よりコロナ陽性者を受け入れる、また発熱外来を継続する大分三愛メディカルセンタールでも、地域の2次救急病院として、一般患者への診療は並行して続けられている。日々やってくる患者への切れ目ない医療・看護は、変わることなく遂行される。病院へは例年、10数名の新卒看護師が入職している。今年も真新しいナース服に袖を通したスタッフたちが、緊張の面持ちで病院内を歩く光景が見られた。

看護師に限ったことではないが、この時代に「病院で働く」という選択肢を選んだのは、それぞれに志があつてのこと。「病氣の人を

助きたい」「自分が病で苦しかった時に、励ましてくれた先輩のようになりたくて」「感染症流行の混乱の中、自分も何かできることがないかと考えて」。多くは語らないが、一人一人が強い意志を持って医療業界に飛び込んできたことは間違いない。

そんな想いを分かち合い、大分三愛メディカルセンタールの看護部では、今年も新たな仲間たちの育成が始まった。つい1、2年前まで震える手で採血の研修を受けていた看護師も、今では1年目看護師たちへの指導・教育を堂々たる姿勢で行っている。そんな先輩の背中についていきながら、日ごと自信溢れる瞳に変わってゆく新人看護師たち。その姿に、続くコロナ禍で疲弊しつつあるスタッフたちも活氣を得ていた。医療現場の理念・技術・歴史は、着々と次世代へとつながっている。

新卒1～2年目看護師研修スケジュール

1年目
4月
・新人オリエンテーション ・新人研修・急変時対応 (BLS)
5月
・1ヵ月の振り返り
6月～7月
・せん妄の看護 ・摂食嚥下看護
・看護必要度 ・3ヵ月の振り返り
8月～9月
・化学療法看護 ・褥瘡ケア
・6ヵ月の振り返り ・夜勤導入前研修
10月
・脳卒中看護
11月～12月
・ストーリーマケア
2月
・1年目の振り返り、2年目に向けて

2年目
5月
・急変時対応 (BLS)
6月～7月
・せん妄の看護 ・摂食嚥下看護
・よりよい看護ケアのためのケーススタディ ・症例発表
8月～9月
・化学療法看護 ・褥瘡ケア
10月
・脳卒中看護
11月～12月
・ストーリーマケア
2月
・2年目の現状と3年目に向けての課題



新聞社から、新人看護師へ取材要請。



入社後はさっそく病院のこと・看護のことを学ぶ。



セラピストをはじめ、多職種が指導する。



実技のみならず、患者との向き合い方も教わる。



2022年4月1日 社会医療法人三愛会入社式。



実技同様、さまざまな知識も取り込み、経験を積む。



実際の看護の手技を学ぶ。



病棟配属、現場の先輩による教育が始まる。



2022年度の新卒看護師は12名。

〔表紙の写真〕
新人看護婦がつける緑の若葉マーク。



当院看護部の
サイトはこちら
<http://san-ai-group.org/nurse>

Pick Up

摂食・嚥下障害看護：認定看護師

金丸 亜希

3階東病棟の看護師として勤務。患者の「食べる・飲み込む」をチームで支え、「安全・安楽な経口摂取の継続」をめざし、医師・管理栄養士・セラピスト・看護師と共に活動を行っている。



通常業務をこなしながらの専門的な活動。



看護師たちと勉強会。



摂食嚥下チームのカンファレンス。



脳卒中リハビリテーション看護：認定看護師

川上 ちづる

4階病棟・看護師長として勤務。脳神経外科病棟での勤務を通じて、脳神経外科の医師を中心に、多くの職種チームと共に、重篤化回避のためのモニタリングやケアのリーダーシップを執っている。



がん化学療法看護：認定看護師

山崎 賢一

専門外来、内視鏡室での業務を通じ、がん薬物療法を受ける患者をサポート。不安や悩みを抱える患者に対し、はっきりとした正解がない場面においても正面から向き合い、関わりの深い看護を実践する。

認定看護管理者

草地 真由美

21ある認定看護分野とは別だが、「保健・医療・福祉の政策などの知識や組織管理に必要な理論、経営的な視点などを用い、組織分析を行い、サービス提供体制向上に尽力する」という役割を担う資格。



医師との打合せを行う認定看護師・金丸。

の教育を受けるのは、業務の片手間でできるようなレベルではない。当院では実習・試験に集中できるように、6〜8カ月の間、業務の現場を離れて長期研修を受けられるようサポートしている。レベルアップして戻ってくるであろう看護師たちが、患者への手厚いサポートや、現場スタッフ全体の質向上のために活躍し、その連鎖が院内・地域へと広がっていくよう、看護部全体で植田地域の医療・看護を担っている。

前述の通り、資格取得のためは、現在3つの分野で認定看護師が在籍している。3名の業務はバラバラではあるが、それぞれ配属されている各部署・病棟では、現場の要として活躍しており、専門的な知識と技術を持っているため、患者からの信頼も特に厚い。専門的な看護・サポートに直結した能力を有しているため、その動きは現場の看護の質向上にも直結する。彼女たちを中心に、医師も含めて多くの職種スタッフが連携を取り、目の前の患者の「今後の生活」を見据えた治療方針が形作られている。

「認定看護師」というと一般にはあまり知られていないかもしれないが、「質の高い看護を実践できる」ことを公的に認められた看護師を指す。つまり、ある分野において「よりレベルの高いスキルを有する看護師」、それが「認定看護師」だ。「一言に「認定」といっても、厳密な審査があり、5年以上の実務経験に加え、615時間以上におよぶ認定看護師教育を修め、さらにその上で試験に合格する必要がある。経験・学習・時間など、諸々の厳しい条件をすべて通過し、ようやく得ることのできる難関資格である。

大分三愛メディカルセンターでは、現在3つの分野で認定看護師が在籍している。3名の業務はバラバラではあるが、それぞれ配属されている各部署・病棟では、現場の要として活躍しており、専門的な知識と技術を持っているため、患者からの信頼も特に厚い。専門的な看護・サポートに直結した能力を有しているため、その動きは現場の看護の質向上にも直結する。彼女たちを中心に、医師も含めて多くの職種スタッフが連携を取り、目の前の患者の「今後の生活」を見据えた治療方針が形作られている。



手術室 Operating room

日々、整形外科・外科・脳神経外科・泌尿器科などを中心に手術が行われている。手術室勤務の看護師は10名前後だが、少数精鋭で救急病院の手術対応を担う。大分三愛メディカルセンターの手術および麻酔件数は、2021年度の概算で約1,000件超。特に上腕・大腿骨の骨折や胆嚢摘出、ヘルニアなどの術式が多い。女性泌尿器科の充実による仙骨腫固定術や、脳神経外科の領域にあたる脳深部刺激療法(DBS)など、最新の術式などにも対応している。



救急 Emergency room

地域の2次救急病院の要ともいえる救急(ER)部門。24時間体制で看護師、また救急救命士が待機しており、救急車で運ばれてくるさまざまな疾患の患者を看護している。脳卒中などの超急性期医療をはじめとして、近年では新型コロナウイルス感染症の患者、もしくは疑い患者などにも対応すべく、体制を整えている。目標とする「年間の救急車受け入れ台数2,000台」、その数字は見えつつある。



心臓カテーテル Cardiac Catheterization

2021年12月より、心臓カテーテル検査・手術が開始された。循環器内科医師、臨床検査技師、放射線技師と共に、チームとして研鑽を積む。血管造影装置の更新のため、2022年3月～6月中旬まで心臓カテーテル検査・手術は中断されたが、それまでの間に検査・手術併せて54件を実施。6月中旬に最新機器が更新されて以降、さらに精力的に「心カテ」が行われている。



2022年6月より稼働。「PHILIPS・Azurion7 B20」

高度治療室 HCU

院内に6床あるHCU病棟は、緊急性の高い、重症患者を対象とした病棟。重症化や急変リスクのある患者を看護するため、よりスピーディーで的確な判断が求められる。



#3 専門的な知識・技術

それぞれの場所、それぞれの専門分野で。

大分三愛メディカルセンターは、いわゆる地域の「総合病院」であり、標榜する診療科は22を数える。一言に「病院の看護師」といっても、配属される部署によって、日々の業務は全く変わってくる。外来診療での業務と、入院病棟での業務が違うことと同様に、救急部、手術部、内視鏡室などの場所のほか、診療科でも脳神経外科なら脳卒中知識、循環器内科なら心臓カテーテルの経験、外科・整形外科なら手術での技術など、その業務は多岐にわたる。各診療科・各疾患・各病棟の専門的な業務に最大限対応できるよう、他のさまざまな職種スタッフと共に、チームでの研修・カンファレンスなどを中心とした自己研鑽は日々積み重ねられている。

前号の広報誌で特集した「心臓カテーテル」についても、その一例として挙げられる。2021年末、循環器内科の診療体制の充実に伴い、満を持して心臓カテーテル検査・手術が開始されたこととなった。循環器内科医は準備に奔走したが、それは看護部も同様で、多くの時間を割いて研修・勉強会が行われ、チームを結成し、新たな診療体制への参加を実現している。当然ながら、看護師の資格を得た段階で全ての診療

科の知識・技術を習得しているわけではないため、通常業務の合間を縫って勉強・研修に明け暮れる。それでも、開始から半年以上経った今となつては、「心カテチーム」はそれぞれ自信に溢れた表情で血管造影室へ足を踏み入れている(左ページ参照)。

一つの病院の中でも、それぞれの現場・それぞれの役割を担いながら、看護は動きつづけている。



HCUでは毎朝、患者についてのカンファレンスを医師中心に行う。

role1

コロナ陽性者 受け入れ病棟での看護業務

第1波時期より受け入れを行い、3年目となる2022年6月末時点で、累計で約500名が入院。高齢者の入院が増えると、業務は看護のみならず「介護」にまで及ぶ。



role2

「発熱難民を出さないよう」 かぜ外来(発熱外来)設置

こちらも第1波時期から。発熱し、行き場に迷う一般市民を受け入れて診察している。流行期には1日20名近くも。受診者はこの2年半で2,000名を超える。



role3

可能な限りの ワクチン接種を推進

院外の近隣介護施設でもワクチン接種を実施。2021年3月、職員への接種から始まったワクチン接種は、2022年夏の段階で累計約6,000回に迫る(職員・一般・施設など、全てを含む)。



role4

感染拡大を防ぐため、 近隣介護施設をサポート

法人内外に関わらず、近隣の介護施設でクラスターや感染発生が起こった際は、医師・看護師・薬剤師・検査技師でサポート・指導へ。数多くの施設で、感染拡大を最小限に留めてきた。



第6波期も、高齢者の入院が増加し、対応に終われる。

#4「コロナ感染症への対応

最もリスクが高い
そう呼ばれる役割を担う。

「発熱外来」「コロナ陽性者受け入れ」「ワクチン接種」を中心にさまざまな対応に追われる大分三愛メデイカルセンターでは、マスメディアからの取材依頼を受けることも多い。その中で、代表して受け応える医師がよく口にするのが、「患者さんに一番接する、一番近くで看護する看護師さんが一番大変だ」という言葉。実際に、発熱外来の業務やコロナ専用病棟で勤務する看護師に感染が確認されてしまったこともある。「感染対策」は誰もが気軽に口にするワードとなったが、コロナ対応では「目の前に確実にウイルスがある」という状況で看護、場合によっては介護まで行うことが日常だ。厚い防護服を着て対応を行う夏、極寒の中、屋外のプレハブで発熱者を看る冬。「彼ら、彼女らのコロナ看護は、2020年から毎日ずっと続いている」。これも、医師がよくカメラの前で口にするワードだ。

リスクの中、収束を待ちつつ、感染症患者の看護にあたる。「先生たちや薬剤師のみなさん、搬送や膨大な事務作業を行う事務員の方々が全力でやってくれるおかげで、私たちも看護に集中できます」。そう言いながら、今日も防護服を着て「コロナ病棟」へと入っていく看護師たち。使命感から始まったこのコロナ対応業務は、医師・薬剤師・臨床検査技師・ソーシャルワーカー・事務員など、多くの仲間たちとの連携・結束もひと際大きい。「コロナ対応チーム」の一員として、要となる看護業務は安定感を増している。三たびやってきたコロナ禍の夏、汗にまみれた防護服を着替えるが、医師と共に日々粛々と業務にあたる。2020年春の第1波の当初は、恐怖と不安の方が大きかった。多くの経験をj得て、現在、この未曾有のパンデミックに本当の最前線で立ち向かうことに、確固たる誇りと覚悟を持っている。

〔 社会医療法人 三愛会 〕

大分三愛メディカルセンター 三愛総合健診センター

所 在 地	〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
T E L	097-541-1311
F A X	097-541-5218
病 床 数	190床
診 療 科	脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、 運動器センター、救急外傷センター（ER）、人工透析センター、 画像診断センター、リハビリテーションセンター、 救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・ 乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・ 泌尿器科（人工透析）・形成外科・内科・総合診療科・ 消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科・ リウマチ科・神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
専門外来受付	8:15～12:00/13:30～17:00 ※診療開始時間は診療科によって異なります。
休 診 日	日曜日・祝日・土曜日午後 ※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。
認 定 施 設	二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、 日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい （大分三愛メディカルセンター内）

T E L	097-542-7409
サ ー ビ ス	居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション （大分三愛メディカルセンター内）

T E L	097-541-7007
サ ー ビ ス	訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所 在 地	〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
T E L	097-588-1311
診 療 科 目	外科・心臓血管外科・呼吸器外科・内科・整形外科・ 循環器内科・リハビリテーション科
病 床 数	19床
サ ー ビ ス	通所リハビリテーション（デイケア）、介護保険相談センター
H P ア ド レ ス	notsuharu-san-ai.com/

三愛呼吸器クリニック

所 在 地	〒870-1143 大分市田尻419-1
T E L	097-541-2588
診 療 科 目	呼吸器内科・内科
サ ー ビ ス	呼吸リハビリテーション
H P ア ド レ ス	kokyu-oita.com

たばるクリニック

所 在 地	〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1
T E L	097-541-2345
診 療 科 目	外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
サ ー ビ ス	訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる （たばるクリニック併設）

T E L	097-542-4139
サ ー ビ ス	入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、 通所リハビリテーション（デイケア）

グループホームたばる （たばるクリニック併設）

T E L	097-541-5298
サ ー ビ ス	入所サービス

庄内診療所

所 在 地	〒879-5421 由布市庄内町柿原280番地1
T E L	097-582-3600
F A X	097-582-3619
病 床 数	19床
診 療 科	内科・消化器内科・外科・消化器外科・整形外科・ リハビリテーション科

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所 在 地	〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
T E L	097-541-6655
サ ー ビ ス	入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、 通所リハビリテーション（デイケア）
H P ア ド レ ス	wasada-care-center.com ※アドレスを変更しています

有料老人ホーム さんさん

所 在 地	〒870-1151 大分市大字市566番地の3
T E L	097-529-5580
サ ー ビ ス	住宅型有料老人ホーム

さんあいヘルパーステーション （有料老人ホームさんさん内）

T E L	097-529-5582
サ ー ビ ス	訪問介護、介護予防訪問介護

〔 社会福祉法人 三愛会 〕

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所 在 地	〒870-1123 大分市大字寒田202番地
T E L	097-567-8822

天領ガーデン・ふれあい館

所 在 地	〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
T E L	097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン （天領ガーデン・ふれあい館内）

T E L	097-574-7500
-------	--------------



写真左から、草地、三ヶ尻、割石

2022年4月より法人看護部長を拝命致しました。39年間の大分大学医学部附属病院勤務を経て、セカンドキャリアとして、地域医療にチャレンジすることを選択しました。地域包括ケアシステムを構築し、植田地区および周辺地域の中核を担っている社会医療法人三愛会の組織の一員になれたことを大変嬉しく思っています。三愛会は、社会情勢および時代の変化とともに地域のニーズに合わせ、これまでの52年間、さまざまな変革と発展を遂げています。これから先の看護部の未来に向け、守破離の精神で大学病院でのキャリアを活かし、融合という新たなカタチをめざしていきます。質の高い看護サービスを提供できるよう、割石看護統括、三ヶ尻看護部長と三本の矢で組織の変革とさらなる発展ができるように精進してまいります。地域医療においては未熟者ですが、どうぞ、温かくご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

社会医療法人三愛会
法人看護部長 草地 真由美

当院は大分市西部地域の中核を担い、地域の医療・介護施設から信頼される病院をめざし、さまざまな取り組みを行ってきました。この2年間は新型コロナウイルス感染症への対応もありました。発熱者を断ることなく、積極的に医療提供を行い、地域で一定の役割を果たしていると感じています。

看護部の理念は、『医療チームの一員として患者・家族・地域の人々に安全で質の高い看護を提供します』というものです。当院では、チーム医療を強化し、入退院支援看護師を配置し、医療ソーシャルワーカー、訪問看護師との連携を図っています。

今年度は、病院として接遇マナーの向上を基本方針に挙げています。看護部も接遇マナーの改善による患者満足度の向上をめざして参ります。また、12月に病院機能評価を受審するとともに、看護部の委員会やチーム活動を通して、看護の質向上に尽力して参ります。

大分三愛メディカルセンター
看護部長 三ヶ尻 明美

社会医療法人三愛会には役割や機能の違う12の事業所があり、大分三愛メディカルセンターの急性期を中心に、老健施設や診療所、呼吸器クリニック、訪問看護ステーション、有料老人ホームなどがあります。看護統括としての役割は、看護に関する施設間の業務内容の調整と看護職員の人員確保です。地域の方々が安心して医療を受け、必要な時は介護施設を利用し、在宅に帰るまでを継続して支援しています。医療機器の充実や医師の診療体制が発展したことで、地域の方々が受診しやすい病院となっている実感があります。また、社会福祉法人として特別養護老人ホームなどとの連携も整えられています。看護部は法人の方針に沿って、その時々に応じた看護の提供を行い、患者さまやご家族に一番近い立場で貢献できるように努めています。個々人に応じた対応を努め、安心と信頼を得られるように頑張っていきます。

社会医療法人三愛会
看護統括 割石 富美子

2022年 看護部あいさつ
地域医療を支える使命感を育む。